

□ 2015年11月 GEO閣僚級会合 於:メキシコシティ

「GEOSS10年実施計画」の後継となる「**GEO戦略計画2016-2025**」を承認する閣僚級宣言「メキシコシティ宣言」を採択。

我が国からは、富岡文部科学副大臣他が参加。同戦略計画は「我が国の今後10年の地球観測の実施方針」と同じ方向性にあること、課題解決のための地球観測に取り組むことの重要性を強調。

□ 「GEO戦略計画2016-2025」

● ビジョン・ミッション

人類の利益のための意思決定や行動が、調整された、包括的かつ持続的な地球観測及び情報に基づいて行われる将来を実現するため、「全球地球観測システム (GEOSS)」の構築等を行う。

● 社会利益分野

地球観測が意思決定を支援しうる分野として、8つの社会利益分野（生物多様性・生態系の持続性、災害強靱性、エネルギー・鉱物資源管理、食料安全保障・持続可能な農業、インフラ・交通管理、公衆衛生監視、持続可能な都市開発、水資源管理）と上記8分野に横断的な分野として気候変動を設定。

● データに関する原則の施行

地球観測データ等を無償かつ無制限なオープンデータとする「**データ共有原則**」並びに地球観測データ等の検索可能性、アクセス可能性、可用性、保管及び補正を定めた「**データ管理原則**」を施行。

● ステークホルダーとの連携

地球観測が社会の需要に応えるため、GEOの招集力を用い、国連機関・条約、実施コミュニティ、民間セクター等の主要なステークホルダーと連携する。

経緯

持続可能な開発に関する世界首脳会議 (WSSD) (2002年9月)
環境保護と経済開発の両立に対する地球観測の重要性を強調

G8エビアンサミット(2003年6月)
10年実施計画の策定、閣僚会合の開催を合意

地球観測サミット

第1回 2003年7月 アメリカ (渡海副大臣)
第2回 2004年4月 日本 (小泉総理)
第3回 2005年2月 ベルギー(小島副大臣)

「**全球地球観測システム (GEOSS) 10年実施計画**」の策定

G8グレンイーグルスサミット(2005年7月)
10年実施計画の採択を歓迎する旨表明

G8ハイリゲンダムサミット(2007年6月)
GEOSSの発展においてリーダーシップを発揮することを確認

GEO閣僚級会合 2007年11月 南アフリカ (渡海大臣)
衛星観測、地上・海洋観測等の国際的な連携の強化を趣旨とするケープタウン宣言を採択

G8北海道洞爺湖サミット(2008年7月)
地球観測データに対する需要の増大に応えるため、GEOSSの枠組みにおいて、観測、予測及びデータ共有を強化する旨表明

G8ラクイラサミット(2009年7月)
気候変動に起因する自然災害及び極端な気象現象の増大した驚異に対処するため、GEOSS開発のための継続中の作業を支援する旨表明

GEO閣僚級会合 2010年11月 北京 (林政務官)
2015年までのGEOSS構築に向けた戦略目標の推進や、観測データの登録とデータ公開の為に体制整備等を盛り込んだ北京宣言を採択

GEO閣僚級会合 2014年1月 ジュネーブ (櫻田副大臣)
2025年までのGEOSSの継続と新しい10年実施計画の策定を盛り込んだジュネーブ宣言を採択

GEO閣僚級会合 2015年11月 メキシコシティ (富岡副大臣)
「**GEO戦略計画2016-2025**」を承認するメキシコシティ宣言を採択

地球観測に関する政府間会合 (GEO)

閣僚級会合(地球観測サミット)

本会合(100か国+EC、93機関) 2015年11月現在

共同議長：先進国と開発途上国各1か国を含む4カ国で構成
(米、EC、南ア、中)

執行委員会(16か国)

(中、韓、日、豪) (EC、独、仏、フィンランド)
(露、アルメニア) (南ア、エジプト、セネガル)
(米、コロンビア、メキシコ)

プログラム委員会

- ・ワークプログラムの策定や実施状況の監督等を担う
- ・参加国・参加機関が推薦する専門家で構成

GEO事務局

(ジュネーブ)
※主にGEO参加国からの拠出金によって運営

「GEO戦略計画2016-2025」の概要

- 人類の利益のための意思決定や行動が、調整された、包括的かつ持続的な地球観測及び情報に基づいて行われるよう「GEOSS」を構築
- 生物多様性・生態系、災害、エネルギー・鉱物資源、食料安全保障・農業、インフラ・交通、公衆衛生、都市開発、水資源の**8つの社会利益分野**やこれらに横断的な**気候変動**において、政策決定に必要な情報を創出
- 国連機関、観測コミュニティ、民間セクター等の**ステークホルダーと連携**し、社会ニーズに対応